



部会の窓 第3回民俗部会研究会を開催しました

6月11日(金)第3回民俗部会研究会を開催しました。今回は、前回おおまかに決定した各委員の担当分野について、現段階での調査の予定や目次案などをそれぞれ発表し、意見交換を行いました。その中では「子供のあそび・おやつなど、子供についてのカテゴリを設けたい」「市民目線のコラムがあったほうがよい」といった意見が出されたほか、「写真集を作りたい」という要望も出されました。

民俗部会では、今後も定期的に部会を開催しながら、各分野で調査を進めていく予定です。



▲会議の様子

- 生産と技術(生業)
- 住生活
- 口承文芸とことば
- 職人・商人の活動
- 地域社会や家のしくみ
- 民俗芸能と民謡
- 衣生活
- 人の一生と人生儀礼
- 遠野の民俗の変容
- 食生活
- 年間の行事と構成

※不足している分野については今後随時補充していきます



民俗編で取り扱う内容は、現在この通りとなっています。

調査レポート 小友地区センターで聞き取り調査を行いました

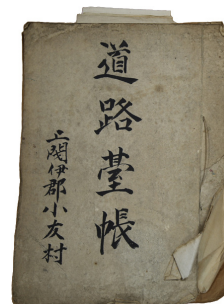
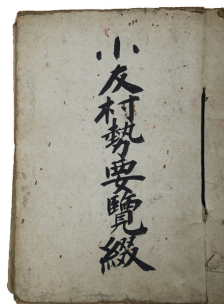
6月24日(木)小友地区センターで聞き取り調査を行いました。調査を行ったのは、民俗部会の後藤美穂委員です。今回は後藤委員が担当する「地域社会や家のしくみ」に関わって、地区センターの業務内容や地域の団体の活動状況、近隣や親戚との付き合いなどについて、地区センター職員から聞き取りを行いました。

聞き取りの中で特筆すべきは、2~3年前まで、正月に本家へ酒などを持ってあいさつに行く「本家礼」が行われていたことを確認できたことです。正月、本家には20人ほどが集まり、ご馳走になって帰ってきたということでした。現在、本家礼を行う家は少なくなっていると考えられ、今後も先細りする可能性が高い風習といえるでしょう。

またこの日は、旧小友村の行政文書の一部が小友地区センターに保管されていたことがわかり、貴重な近現代資料の発見となりました。



▲地区センターだよりを閲覧する後藤委員(左)



▲今回発見された旧小友村の行政文書綴

市史編さん室では、さまざまな時代の資料や館跡を調査しています。
古文書や古写真をお持ちの方は、ぜひ市史編さん室までご連絡ください。

馬
つ
こ
つ
な
ぎ



6月15日

藁わらや木版もくはんで馬の形を作り、おしとね（米粉を水で練ったもの）を供え、田の水口みなくちや井戸、氏神、道の分かれなどにおいて拝む神送りの行事。この日は京都市の八坂神社*、愛知県の津島神社*の大祭で、全国の神々が集合するため、馬で神様を送り出すとされています。また田の神様が馬に乗って作柄を見て回る、あるいは稲の生育を見届けてお帰りになるのを送る行事とも言われています。

現在市内で行われている所はごくわずかですが、遠野ふるさと村で行事の再現が行われています。*現在この行事は、都合により6月15日以外に行われている場合があります。

*八坂神社（京都府京都市）…主祭神はスサノオノミコト。スサノオノミコトは、祇園精舎の守護神・牛頭天王と同一視され疫病退散の神として信仰を集めた。祇園祭で有名。
*津島神社（愛知県津島市）…牛頭天王信仰の中心社で、古くは津島牛頭天王社と称した。織田信長や豊臣秀吉らの尊崇を集め、疫病退散の神として信仰された。



石碑の前に和紙に刷った馬を置き、生米、おしとねを供える
(小友町鮎貝 八坂神社)

編さん室日記

コロナ禍の前までは、会議といえば会場におもむおもむ赴き、打ち合わせも実際に会って行う、ということが普通でした。しかし、この「普通」は今やオンライン会議がとって代わり、実際に足を運ばなくても画面越しに相手と会えるようになりました。

これまでも何度かこの紙面上でお伝えしましたが、編さん室でも編さん委員の方々とオンライン会議を行っています。海外赴任中の委員や外出自粛で遠野に来られない委員もいますので、オンラインでなかったら大変なことになっていたでしょう。ちょっとした打

ち合わせも、電話より顔を見て話せるオンラインのほうがやりやすいように感じます。

ですが、資料調査もすべてオンラインではいきません。資料の写真でも調査はできますが、やはり原資料にあたりたいもの。聞き取り調査も画面越しでは十分な調査とは言えません。

今後はオンラインを上手く使い分けていくことになるのだと思いますが、やはり自由人と会ったり出かけたりできる日々が、早く戻って来てほしいと願ってやみません。

